



読者の皆様へ

ばびるす BOOKS へのご感想・ご希望をお待ち
しております。また、ほかに読んでみたいと思わ
れる書名を添付のハガキにご記入の上お送りくだ
さい。ご感想を新聞・雑誌および当社の月報・出
版案内に掲載させていただいた場合は、お礼とし
てこのシリーズのご希望の本一冊をお送り申し上
げます。 ばびるすBOOKS編集部

ばびるす BOOKS

幸せてなんだろう

1974年4月10日 発行

著 者 石井ふく子

発行者 竹内 肇

発行所 三笠書房

東京都新宿区戸山町35番地 郵便番号 162
電話東京03(203)7781(代表) 振替東京22095

印刷 誠宏印刷

製本 松本製本

©Fukuko Ishii Printed in Japan 1974

0395-11117-8937

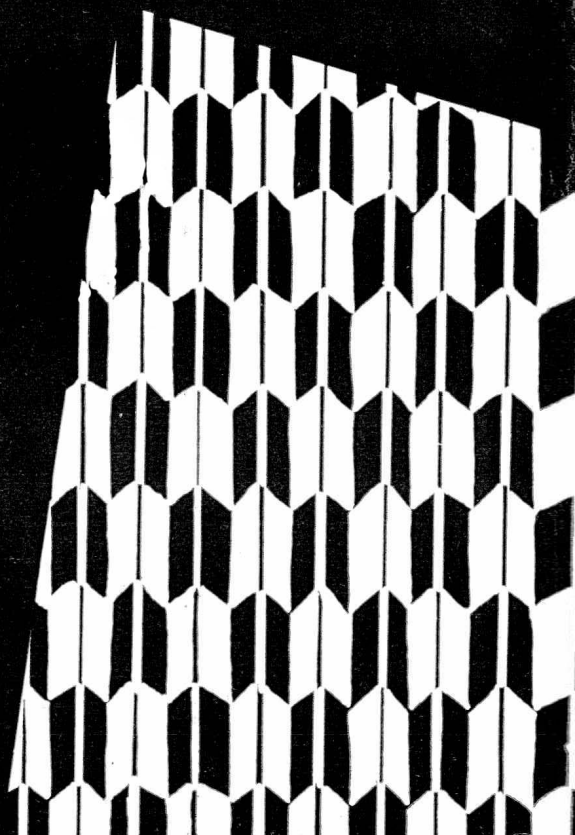
乱丁・落丁本はお取替えます。



幸せってなんだろう

石井ふく子

三笠書房



幸せってなんだろう ● 目次

I

ありがとう 13

ある想い出 16

九月一日 20

幼な心の情景 22

またね 24

二十歳の原点 29

ちゃんちゃんこ 31

わたしの交遊録

1 香川京子さん 32

2 杉村春子さん 34

II

へだたりとつながり 41

きずな 43

夏の旅 46

ねむい・金くれ・めし 48

母親像 51

子育て 53

話す 54

日本の縮図 56

謙讓の美德 57

ナスとネズミ 64

箸袋 66

味わいある金づかい 68

貧すれば鈍する 71

“らしさ”の喪失 75

III

へちま 91

花を失う 94

セミ異邦人 96

ざくろ 98

紅葉狩り 101

七五三 103

ボロ市 105

しつけ 107

鉛筆 111

わたしの交遊録

3 池内淳子さん 81

4 芦田伸介さん 85

IV

はんこの寿命 113

おむすび 116

女と味噌汁 119

女の呼び名 122

電話 126

人形 130

井戸端 132

ホーム・ドラマの立場から 148

ドラマのできるまで 154

あるドラマの裏側 161

代役料——エピソード1—— 169

消え物——エピソード2—— 170

海外ロケ——エピソード3—— 172

ドラマの効用 174

わたしの交遊録

5 大空真弓さん 135

6 石坂浩二さん 138

7 沢田雅美さん 140

わたしの交遊録

8 佐良直美さん 177

9 波乃久里子さん 180

10 長山藍子さん 182

V

女と仕事 187
仕事の世界で 190

ともだち 193

さわやかに 196

某月某日 その1 198

某月某日 その2 199

わたしの交遊録

11 山岡久乃さん 201

12 京塚昌子さん 203

13 森光子さん 206

VI

二人でいても淋しいとき 211

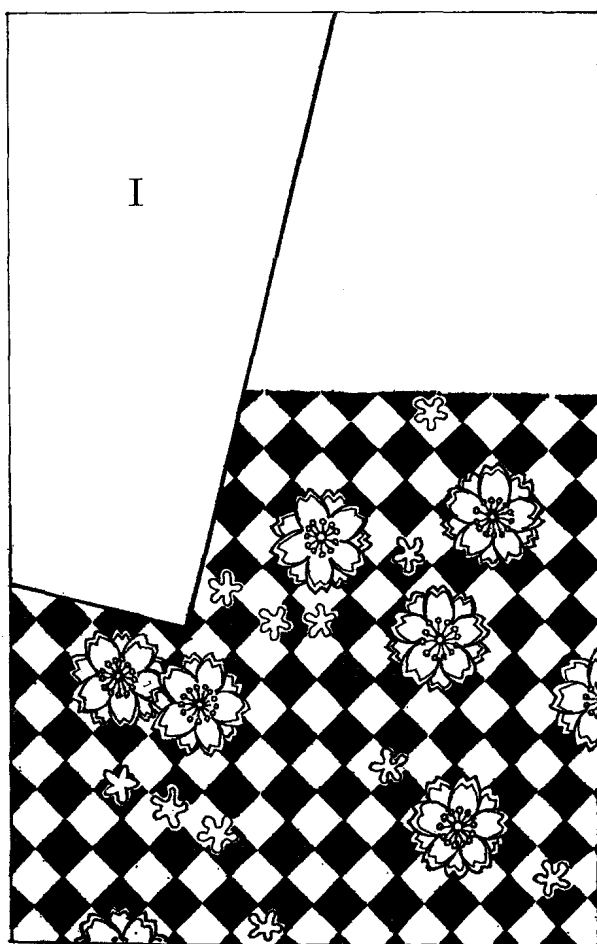
父の面影……平凡ということ 220

幸せってなんだろう 227

あとがき 225

装幀・扉絵 石坂浩二

幸
せ
っ
て
な
ん
だ
ろ
う



ありがとう

なんでもない言葉。

さわやかな言葉。

あたたかい言葉。

率直な言葉。

心の……言葉。

ときには忘れられてしまった言葉。

「ありがとう」……最近、この言葉の意味が忘れられているようだ。
人に感謝するときでも、

「どうも、どうも……」

などと、あいまいにごまかすばかりで、

「ありがとう」

と、素直にハッキリした言葉がなかなか聞かれなくなったのは、心寂しい。

「ありがとう」は、生きることの喜び、生きることのすばらしさを表現する大事な大事な言葉。

なのに、最近の子供たちはその本当の意味を知らないし、知ろうともしない。

それは子供をしつける親の責任でもある。

子供の教育にあたる親にとって、この言葉のもつ意味を正しく教えるときは、言葉や本によって教えるのではなく、からだでしか教えることができないということの重大さを、もう一度考え直してほしい。

すべての社会が進歩した現在、最新式の機械やコンピューターの導入で、手間や時間が省けたことはありがたい。

しかし、いちばんガラリと変わり、索莫とした思いにさせられるのは、人間関係である。機械化の時代だからといって、人間関係、人と人とのつながりまで機械化されてはかわない。

今の世代には、まず初めに文句がある。自分の言い分や不満が、まっ先に飛び出してくるのである。

しかし、言いたいことを言うためには、それなりの裏づけがほしい。

文句を言うのなら、言うだけの仕事をするべきである。

やるだけやってからの言い分なら、誰でも耳を傾けてくれるはずである。

これは、中途半端にイーシーに、理論だけの文句しか言えない人たちに考えてほしいことだ。

人間が機械化されて、個性が失われ、ロボットのように仕事をし、文句を言うときだけが、自己主張で個性的ということでは、あまりにも情けないではないか。

生きているということ。

それは「ありがとう」の意味である。

「ありがとう」には涙がある……

温かい涙、

悲しい涙、

冷たい涙、

楽しい涙。

涙のとなり「ありがとう」がある。

「ありがとう」は心の触れ合う音がする。